

有峰森林文化村支援語り部講の活動報告書

令和2年9月10日

公益社団法人富山県農林水産公社理事長 殿

活動組織名 有峰だいき会
代表者名 中川 正次
担当者名 帳山 朋美

有峰森林文化村支援語り部講を以下のとおり実施しましたので、報告します。

1. 実施日 令和2年9月6日（日）
2. 名称 愛着の森～木を測り続けて森を知る編～
3. アドバイザー 長谷川幹夫さん（一般社団法人 TOGA 森の大学校 校長）
4. 参加者 13名（アドバイザー含む）
6. 日程 9:30 有峰ビジターセンターに集合
有峰の森，ヤマハンノキ林の話（長谷川さん）
昨年の報告，調査方法の説明（帳山）
10:15 猪根谷のヤマハンノキ林へ出発
・高木調査（ナンバーテープ付け、幹径測定）
・新界木調査（ナンバーテープ付け、幹径測定、樹木位置測定）
12:30 調査終了
・昼食
・音楽会
13:30 解散

7. 実施報告

参加者は12名、アドバイザーの長谷川さんと有峰森林文化村のスタッフの方々を含めて15名のグループとなりました。うち未成年は1名、新規の参加者は2名でした。

ビジターセンターで、長谷川さんから調査地のヤマハンノキ林がどうやってできたかや、ヤマハンノキの特性についての講義を受けました（写真1）。その後、昨年の調査報告や調査方法の説明を行い、猪根谷の調査地へ向かいました。調査は直径5cm以上の高木調査班（2班）と直径2cm以上の新界木調査班に分かれて行いました（写真2，3）。調査地は藪や倒木があり、決して歩きやすい状態ではありませんでしたが、皆さん真剣に調査に取り組んでいらっしゃいました。直径2cm以上の新界木が3年前よりも随分増

えていて、森の移り変わりを肌で感じる事ができました。おかげでスムーズに調査を終えることができ、猪根平のバーベキュー広場にて昼食をとりました（写真4）。談笑やギター演奏を楽しんだ後、解散となりました。

今年は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小しての開催となり、人数も時間も例年よりも少ないものとなりましたが、調査の方は例年通り実りあるものとなりました。コロナの状況により、来年以降も不確定な部分がありますが、状況に応じて継続可能な形を模索していきたいと思えます。

今年も有峰森林文化村のスタッフの方々には大変お世話になりました。色々とお気遣いいただき、円滑に行事を進める事ができました。この場をお借りして、有峰森林文化村の皆様に改めて御礼申し上げます。



写真1. 長谷川さんの講義



写真2. 調査風景（高木班1）



写真3. 調査風景（高木班2）



写真4. 猪根平で昼食